副会長挨拶

国大化学会発足３年が過ぎ次の段階へ

禅　知明（平成元年物工卒）

皆さま，こんにちは．副会長の禅です．

平成19年４月１日をもって「横浜応化会」「横浜電化材化会」「横国化学会」が統合されて発足した「国大化学会」も３年が過ぎました．世間では「同窓会＝卒業生の集まり」というのが通念となっているようですが，「国大化学会」の発足主旨にはそれだけではなく，図１のように「卒業生」「現役学生」「大学（教員を含む）」を同窓会が結びつける役割を担うことが含まれています．

これを実現するために第１期に続き，第２期の役員体制では二大方針

第一　国大化学会会員間の相互交流とネットワークの構築

第二　大学と学生への支援

を掲げて事業を進めて参りました．これまで発行してきた会誌や総会でその都度ご紹介してきましたが，「次の段階」へ進むべく，ここで「国大化学会」がどんな事業を行っているのか主な事業を列挙してみましょう．

【卒業生とのつながり】

・総会

会員同士や教員が“**直接**”顔をあわせられる場，同窓会の原点．近年，改革の進む大学についての紹介の場にもなっており学長や学部長にご講演いただくこともあり好評を博しております．

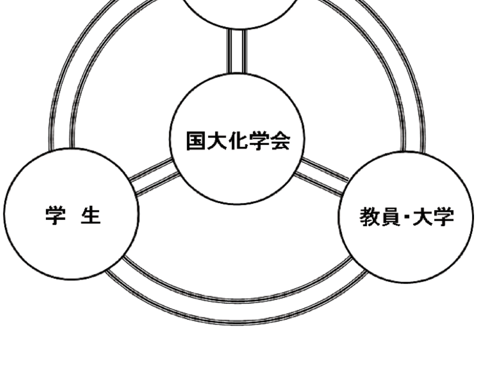

図１.

・名簿の発行

会員情報の根本です．事務局が管理しています．個人情報の問題を考慮した上で発行を準備しています．

・「クラス幹事」から「同窓委員」へ

会員との連絡の要です．実情にあわせた再編成を行っているところであり，平成の卒業生にはクラス概念がないこともあり，各卒業年ごとや研究室からの選任もお願いしています．

・広報

会員への伝達方法として，年1,2回の会誌発行とホームページの充実化に加えて，メールマガジンも利用します．

・会費納入

『あなたの会費が国大化学会と大学・学生を支えています』国大化学会を運営するには志だけでは不可能です．会費の使用用途についいてご理解いただき会員の皆さまから納入いただけるようご案内させていただいております．

【学生とのつながり】

・役員への現役学生の参画

学生の立場から国大化学会への提言の窓口となっていただくとともに役員として事業に参加することで卒業生とのつながりをつくります．

・「OBと大いに語る会」の開催

卒業生が多忙の中，大学まで出向いて体験談を学生に披露いただくとともに直接会話ができる場．学

生に社会に出るということ，会社という組織について知ってもらうよい機会となり，学生が進路を考えていく上での参考にも平成13年からスターとしており本年で10年目となります．

・教育研究支援基金による支援

これまでに支援を受けた学生は88名にのぼります．

これは教員への支援にもつながっています．

【大学・教員とのつながり】

・役員への化学系教員の参画

教員の立場から国大化学会への提言の窓口となっていただき支援事業の実質化・改善にもご尽力いただいています．また大学やくとともに役員として事業に参加することで卒業生とのつながりをつくります．

・ホームカミングデーへの参画

大学が主導となり開催するようになった「卒業生の集まり」の場であるホームカミングデーはその意義から各同窓会の参画なしには開催できません．実行委員会には大学の職員・教員・学生・各同窓会から選任された会員が参加してこの事業を実現させており，ここで強い「つながり」が生まれています．

【役員会の実質化】

執行役員の仕事を明確にするため執行役員を7グループに分けるとともに円滑な運営の為に役員全体の「役員会」に加えて，グループ間のコミュニケーションを高めるべく「グループリーダー会」を開催．

図2.　物質工学科化学棟

この3年間の「体制作り」でほぼ「国大化学会運営の基礎」は固められたと思います．建物でいうならば，基礎地盤と柱（事業）ができあがってきた状況です．「国大化学会」という建物をつくっていくには「**次の段階**」としてこの柱が倒れないように補強していく（**事業の実質化と充実化**）ことです．この仕事は役員だけでできるものではありません．卒業生・学生・教員からなる構成員からの協力があって成り立ってゆくものです．

そのためには様々な同窓会事業に会員の皆さま自身が“**楽しく**”ご参加いただくことがまず大切です．ともに盛り上げて行こうではありませんか．